

落雷の危険回避

- ・ゴム製のカッパや長靴は雷の電流の大きさからすると絶縁効果はほぼゼロ。
- ・雷は、直撃の他、空中で分岐して複数に通電する。木などからまわりに散る。地面を伝って広がる。水道管や電線などから伝わる。などの性質があり、注意が必要。
- ・地面から突き出た場所に落ちる可能性が極めて高い。よって、傘やバットを頭より高い位置に置くのはとても危険。開けた場所では、安全な場所へ移動し、身を守る姿勢をとる。
- ・木の近くは側撃とよばれる、木を伝って近くのものに通電することがあり危険である。
- ・避雷針の効果がある5 m以上の電柱や鉄塔の下で、電柱から4 m程度離れた場所が比較的安全である。
- ・木造家屋の軒下は、雨をしのぐことはできても、建物からの側撃を受けることがあるので安全ではない。
- ・建物の中、車や電車、飛行機の中は比較的安全なので、近くにあれば避難する。
※オープンカーや屋根と柱だけの掘立小屋はNG!
- ・雷鳴が遠くで聞こえていても落雷の危険性は広範囲であるため、早めに避難する。
- ・落雷の直撃を受けた場合は、心肺停止、即死の可能性があるので、即座に心肺蘇生、AEDなどの処置が必要である。

落雷クイズ

- 1 突然の雷！落雷を受ける確率を下げる方法は？
 - ① ゴム製の長靴やカッパを身につける
 - ② 眼鏡や時計、ネックレスといった金属類を身から外す
 - ③ 鉄筋コンクリートの建物の中に避難する
- 2 野外での雷！避難場所が見当たらないときに、雷から身を守る「雷座り(雷しゃがみ)」とはどのような姿勢？
 - ① 姿勢を低くし、両足をそろえて、頭を下げてしゃがみ込み、両手で耳をふさぐ
 - ② 姿勢を低くし、地面に手をつけてしゃがみ込む
 - ③ 地面に寝そべり、両手で耳をふさぐ
- 3 雷鳴が聞こえてきた！雷について、正しい知識はどれ？
 - ① まだまだ遠くの方で雷鳴が聞こえるので、避難をする必要はない
 - ② 稲光を見てから音が聞こえるまでに少し間隔があったとしても、数キロ先では雷が起きている可能性がある
 - ③ 雷鳴が聞こえた後、10分しても次の雷鳴が聞こえないので、落雷の心配はない

〈身に危険を感じた場合に推奨される姿勢〉



正解 1③ 2① 3②